

大阪城

2022
5/26
(木)
14263
号

全港
西成分会

2247
6847-
4947

来週になれば、園西も梅雨の話になるの
だろう。コロナもオミクロンになり、最近の
オミクロンの派生型、変移なのか「BA.2」が
主流だという。そこに「東京で」「BA.5」型が
はじめて確認されたとか、「BA.2.12.1」型が2人
空港で18人見つかったとか、何がどうよ、
とか、ウイルスの内容については「国モマスコミも
今や、何んの説明もなくなった。

大阪市は昨日から60歳以上の人などに接種券を
発送し、今月下旬から接種が始まる。

国の使うワクチンの代金は2兆4000億円とか
いわれたりするが、ワクチンの調達費は「秘密」は
保持契約だから、予算ははいえないとかで「政治」
非行しているが、こんなことではダメだろう。

日本の行政・政治制度は、明治18年(1885年)

伊藤によって創設されて以来、戦後の民主化で少し
年をおして、戦前からの多くを、そのが、続いている。
表層は英語をつかい、アメリカ化されて新しくうたが、
基層・深層は明治のままのようである。実体は
「交渉」しつつあるアメリカと組んで、戦前と同じく中国
に對抗する道とえらんでいる。この5年、10年、
昔と難としが、社会の底から生かすきこうです。

雨に込められた仕事の境端

常連の労働者でもぎびじんと。

3月年度末から梅雨が明けて真夏の暑い時期に求人が集中する二つのピークの間の谷間を昔から「地獄の境端期」と言われてきました。最近参入してきた労働者も多くなっているようでもうひとつピンとこないようかもしれないが、ロシア・ウクライナ発の世界規模の大不況も重なるので体験したことのないことになるかもしれません。

格差是正レーン逆走の岸田内閣

岸田氏は「日本経済はこれからも力強く成長を続ける」と強調したが、日本経済はこれまで力強く成長していない。この発言ひとつで言葉の信用を失う。

「これからは力強く成長する」と発言するなら意味もあるが、世界最悪の経済停滞の実績を携えて「これからも力強く成長を続ける」では失望しが生まれない。日本のGDPがピークを記録したのは1997年。

そこから25年の時間が経過したが、25年間の日本経済の成長はゼロにも届かない。

ドル換算の日本の名目GDP水準は1995年を100とすると2020年は91・米国が273に達し、中国が2034に達するなかで、日本だけが25年前のGDP水準を下回った。

一人当たりGDPで、西暦2000年に日本は世界第2位の地位に位置したが、2020年には世界第23位にまで転落した。増加しなかったのはGDPだけではない。労働者の賃金もまったく増加していない。

OECDが公表している購買力平価換算の一人当たり平均賃金で日本は韓国にも追い抜かれた。

一人当たり実質賃金指数は第2次安倍内閣が発足した2012年から2020年までの8年間で5.6%も減少した。

日本経済の問題は「成長できない経済」、「減少し続ける労働者賃金」の二つに集約されている。

この日本経済実績があるなかで首相が「これからも力強い成長を続ける」と述べたのでは相槌を打つことすら不可能だ。あまりにもお粗末なプレゼンテーションだ。

経済学者

植草一秀